

令和7年度 大阪市立墨江小学校 GRAND DESIGN

学校教育目標

「自分も友達も大切にできる子」「主体的に学び、自ら挑戦・行動できる子」の育成

安心安全な教育の推進

- 自己肯定感・有用感の向上
- いじめ・不登校対策
- 多様性の受容
- 思いやり・協力の醸成
- 防災・減災・防犯対策の取組
- あいさつ運動の取組

未来を切り拓く学力・体力の向上

- 主体的・協働的で深い学びへの授業改善
- 自主学習の推進
- 学力の向上（学力の二極化の解消）
- 体力・運動能力の向上

学びを支える教育環境の充実

- 図書館教育の充実
- ICT 機器の有効活用
- 教員の資質向上
- 児童・保護者・教職員の WELL-BEING の実現

重点目標（PLAN）

具体的取組（DO）

- ◇ポジティブ行動支援教育の導入
- ◇「ええところみつけ」の工夫
望ましい行動を肯定的に支援
- ◇いじめアンケート・心の天気の有効活用
- ◇不登校傾向児童への重点的な取組
- ◇集団育成 いじめ・不登校の予防的取組
- ◇たてわり班・ペア学年での取組
- ◇特別支援教育・人権教育の推進
他を認め、思いやりの気持ちの醸成
- ◇児童会を中心にあいさつ運動の高揚
- ◇防災・減災・防犯教育の計画的な実施

- ◇国語科を研究教科とした授業実践
- ◇主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業実践
- ◇基礎基本の学力の定着
- ◇漢字検定の取組
- ◇一斉教え込み授業からの脱却（授業形態・話し合う活動の工夫）
- ◇週に1回以上の自主学習の取組
- ◇総合的な学習の時間の充実
- ◇カリキュラムマネジメントの推進
- ◇体育科の学習・体育的取組の充実
- ◇学級遊び等の工夫による運動遊び

- ◇読書の場・読書活動の工夫と充実
- ◇読書を楽しめる子育成のための取組
- ◇授業での端末活用促進
- ◇週に1回以上の端末の持ち帰り
- ◇国語科の授業研究の推進
- ◇資質向上のための一人一授業公開
- ◇校内研修・メンター研修の充実
- ◇週に1回 ゆとりの日の徹底
- ◇SSS・WLBの有効活用
- ◇校内安全確保のための取組

評価目標（CHECK）

- ◎学力経年調査児童アンケート「自分にはよいところがある」の割合を前年度より高める。
- ◎学力経年調査児童アンケート「自分から進んであいさつをしている」の割合を前年度より高める。
- ◎学力経年調査における標準化得点をいずれの学年も前年度より向上させる。
- ◎学力経年調査児童アンケート「話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりしている」の割合を前年度より高める。
- ◎学力経年調査児童アンケート「読書が好き」の割合を高める。
- ◎教員の時間外勤務時間を減少させる。

改善実行（ACTION）

大阪市立墨江小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、明治5年に創立され、令和4年度に創立150周年を迎えた歴史と伝統のある学校であり、また校区には、「住吉大社」や「熊野街道」がある歴史薫る地域にある学校である。

地域の方々の中には、親子何代かにわたって本校の卒業生という方も少なくなく、学校への思いはあたたかい。人情味のある地域の方々みんなで子どもを育てていくといった文化が受け継がれているため、地域と学校がともに取り組む行事も多い。

本年度、26学級(内特別支援学級7、自校通級学級1)、児童数531名(R7.4.1.現在)、校内では、1年から6年までの児童でたてわり班を編成し、たてわり集会や植栽活動、墨江子どもフェスティバルなど、様々な取組を行ったり、ペア学年での取組、また登校班を編成し集団登校を行ったりし、異学年による活動も盛んである。

令和4年度から6年度の各種調査における結果は、以下のようになっている。学力面ではほとんどの学年が市や全国の正答率を上回り、「市平均の正答率の2割を上回る」児童の割合も高く、おおむね良い結果といえる。しかしながら、一方で「市平均の正答率の7割を下回る(第IV区分)」児童の割合も学年によってはまだまだ高く、二極化の傾向がみられる。昨年度の取組により第IV区分の児童の割合を大きく減少させることができた学年もあり、さらなる学校全体としての取組により、効果を上げていきたい。体力面では、その学年によっても、種目や男女でのばらつきがあり、一定の傾向はみられない。校内アンケートでは90%以上の児童が「運動が好き」と答えており、休み時間にも運動場で遊具やボール等を使って遊ぶ児童は多い。

令和6年度大阪市学力経年調査の児童質問紙では、「いじめはどんな理由があってもいけない」に肯定的な回答が前年度78%に比べて84%と増加しており、また校内調査においても「みんなのことを考えて進んで協力することができた」に対する肯定的な回答が85%から91%と増加した。このように取組の成果が表れている項目がある一方で、「自分にはよいところがある」に対する肯定的な回答は、77%、「学校に行くのは楽しい」についても85%と目標値を下回る結果となっている。

そこで、本年度は児童の自己肯定感・有用感を高めることを学校の大きな目標とし、学校教育目標の見直しとともに、ポジティブ行動支援の取組を進めていくこととする。子どもたちがいきいきと楽しく学校生活を送れるよう取組を進めたい。

また、「読書が好き」に肯定的な回答が71%、「話し合う活動を通して自分の考えを広げたり深めたりすることができている」に肯定的な回答が79%とまだまだ低い結果のものもあり、本年度重点的に取組を進めていかなければならない課題である。

教員の資質向上により、「個別最適な学び」や「主体的・協働的で深い学び」への授業改善を図るとともに、学校生活の中で、自己選択・自己決定の機会を大切にし、自己肯定感を高める取組を作っていきたい。

令和4年度・5年度・6年度 全国学力・学習状況調査結果

平均	年度	国語	算数	理科	2科目合計
本校	4年度	68	66	66	134
	5年度	73	70	実施せず	143
	6年度	70	64	実施せず	134
(大阪市)	4年度	(64)	(62)	(60)	(126)
	5年度	(67)	(62)	実施せず	(129)
	6年度	(66)	(62)	実施せず	(128)
(全国)	4年度	(65.6)	(63.2)	(63.3)	(128.8)
	5年度	(67.2)	(62.5)	実施せず	(129.7)
	6年度	(67.7)	(63.4)	実施せず	(131.1)

令和4年度・5年度・6年度 小学校学力経年調査結果

	令和4年度		令和5年度		令和6年度	
	墨江	大阪市	墨江	大阪市	墨江	大阪市
国語	74	70	67	65	70	66
社会	70	65	64	62	65	61
算数	72	66	71	67	71	68
理科	72	65	65	63	67	65
英語	89	84	86	82	84	80
総合	75	70	68	66	68	66
標準化得点	102.9		101.2		101.9	

	令和4年度					令和5年度					令和6年度				
	3年	4年	5年	6年	全体	3年	4年	5年	6年	全体	3年	4年	5年	6年	全体
市平均正答率の7割に満たない児童の割合 %	4.8	11.5	2.1	6.4	6.1	19.4	12.9	11.5	3.2	11.6	12.2	20.8	2.3	6.8	10.5
市平均正答率を2割以上上回る児童の割合 %	40.5	33.3	41.5	24.4	35.3	33.3	35.3	29.9	40.0	34.6	45.1	20.8	40.2	35.2	35.3
話し合う活動自分の考えを深めたり、広げたりできている%	89.3	83.6	77.5	77.5	81.0	84.0	83.9	73.7	84.6	81.6	85.3	72.8	80.4	77.2	78.9

令和4年度・5年度・6年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査（5年生）

	平均	握力	上体起し	長座 体前屈	反復 横とび	20mシャ トルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボ ール投げ	体力合計点
		kg	回数	cm	回数	回数	秒	cm	m	
男子	学校	16.69	16.78	35.83	33.94	35.76	9.71	149.33	—	—
		15.46	17.00	28.67	40.87	49.89	9.66	149.15	20.70	50.13
		16.41	18.76	30.63	38.22	43.74	9.6	150.91	20.61	50.02
	(大阪市)	(16.11)	(18.44)	(33.14)	(38.26)	(42.95)	(9.59)	(148.22)	(20.07)	(50.83)
		(15.97)	(18.72)	(32.66)	(38.27)	(45.10)	(9.50)	(147.92)	(20.35)	(51.13)
		(15.78)	(19.09)	(32.72)	(38.56)	(45.05)	(9.52)	(147.96)	(20.45)	(51.13)
	(全国)	(16.21)	(18.86)	(33.97)	(40.36)	(45.92)	(9.53)	(150.83)	(20.31)	(52.28)
		(16.13)	(19.00)	(33.93)	(40.60)	(46.92)	(9.48)	(151.13)	(20.52)	(52.59)
		(16.01)	(19.19)	(33.79)	(40.66)	(46.9)	(9.5)	(150.42)	(20.75)	(52.53)
女子	学校	16.04	16.11	41.81	32.43	28.56	9.68	140.46	—	—
		15.38	18.04	36.79	41.96	44.78	9.85	144.90	11.56	54.36
		15.39	19.74	35.35	39.07	36.55	9.67	149.76	12.87	54.75
	(大阪市)	(16.01)	(17.55)	(38.00)	(36.50)	(34.13)	(9.76)	(140.76)	(12.77)	(52.65)
		(15.88)	(17.85)	(37.44)	(36.49)	(34.75)	(9.74)	(140.20)	(12.69)	(52.67)
		(15.64)	(18.06)	(37.62)	(36.76)	(34.65)	(9.83)	(139.56)	(12.71)	(52.47)
	(全国)	(16.10)	(17.97)	(38.18)	(38.66)	(36.97)	(9.70)	(144.55)	(13.17)	(54.31)
		(16.10)	(18.05)	(38.46)	(38.73)	(36.80)	(9.71)	(144.29)	(13.22)	(54.28)
		(15.77)	(18.16)	(38.19)	(38.7)	(36.59)	(9.77)	(143.13)	(13.15)	(53.92)

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

《基本的な方向1 安全・安心な教育環境の推進》

- 令和7年度小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。(R5;86.4% R6;85.1%) **R7:86.6%**
- 令和7年度小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。(R6;84%)
R7:86.1%
- 毎年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を毎年、前年度より減少させる。
- 毎年度末の校内調査において、不登校児童の改善の割合を毎年増加させる。

《基本的な方向2 豊かな心の育成》

- 令和7年度小学校学力経年調査における「将来の夢や目標を持っていますか」に対して「思う」と肯定的に回答する児童の割合が86%以上になるようにする。(R5;85% R6;85.2%) **R7:86.1%**
- 令和7年度校内児童アンケートにおいて、「自分にはよいところがあると思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。(R5;81% R6;77%) **R7:81.2%**
- 令和7年度校内児童アンケートにおいて、「自分から進んであいさつをしていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。(R5;89% R6;88.2%) **R7:82.9%**

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

《基本的な方向3 誰一人取り残さない学力の向上》

- 小学校学力経年調査の国語科・算数科において、市平均正答率の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年においても毎年減少させる。**国:1学年 算:2学年で減少**

《基本的な方向4 健やかな体の育成》

- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、体力合計点の対全国比の割合を男女ともに1以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

《基本的な方向6 教育DXの推進》

- 校内児童アンケートにおいて「学習者用端末等ICT機器を使った学習はわかりやすいですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を90%以上とする。(R6;88.6%) **R7:88.8%**

《基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり》

- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2※を満たす教職員の割合を95%以上にする。(R5;94.6% R6;91.7%) **R7:91.89% (12月)**

《基本的な方向8 生涯学習の支援》

- 令和7年度小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を72%以上にする。(R5;70.8% R6;70.7%) **R7:73.9%**

※基準2：1年間の時間外勤務時間が720時間以下、時間外勤務時間が45時間を超える月数6以下、時間外勤務時間が100時間を超える月数0、直近2～6か月の時間外勤務時間の平均が80時間を超える月数0、をすべて満たす。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

《基本的な方向1 安全・安心な教育環境の推進》

- ・ 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 87%以上にする。(R5;86.4% R6;85.1%) **R7:86.6%**
- ・ 小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。 **R7:86.1%**
(R5;78% R6;84%) (「いじめ肯定」R5;6.5% R6;2.5%) **R7:2.2%**
- ・ 校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。(R5;7人 R6;8人) **R7:10人**
- ・ 校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 R6:100% **R7:40%**
- ・ 校内児童アンケートにおける「インターネットを使って携帯・スマホなどで、動画を見たりゲームやSNS（メール・LINE・チャットなど）をしたりするときのルールなどをおうちのひとと決めていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 昨年度に比べ増加するようにする。(R6;79%) **R7:82.7%**
- ・ 校内児童アンケートにおける「台風や地震、津波、火災などの災害が起こった場合、自分の身を守る方法を知っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 昨年度に比べ増加するようにする。(R6;94.5%) **R7:94.1%**

《基本的な方向2 豊かな心の育成》

- ・ 小学校学力経年調査における「自分にはよいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 82%以上にする。(R5:81% R6;77%) **R7:82.8%**
- ・ 小学校学力経年調査における「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 88%以上にする。(R6;87.6%) **R7:86.4%**
- ・ 校内児童アンケートにおいて、「自分から進んであいさつをしていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。(R5;89% R6;88.2%) **R7:82.9%**
- ・ 校内児童アンケートにおける「たてわり班や登校班活動でみんなのことを考えて、進んで協力することができましたか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。
(R5;85% R6;90.5%) **R7:86.2%**

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

《基本的な方向3 誰一人取り残さない学力の向上》

- ・ 小学校学力経年調査における、国語科の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。(R6;3年1.14 4年;0.99 5年1.06 6年;0.96)
- ・ 小学校学力経年調査の国語科・算数科において、市平均正答率の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年においても昨年度より2ポイント減少させる。

(国語科)

R6		3年	4年	5年	6年	
		9.8	18.1	6.7	13.3	
R7	3年	4年	5年	6年		
	19.7	10.6	5.7	7.9		
		+0.8	-12.4	+1.2		

(算数科)

R6		3年	4年	5年	6年	
		12.2	31.9	11.1	12.1	
R7	3年	4年	5年	6年		
	20.8	16.5	9.0	3.4		
		+4.3	-22.9	-7.7		

- ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を50%以上にする。(R5 ; 49% R6;33.5%) **R7:36.6%**

《基本的な方向4 健やかな体の育成》

- ・ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、体力合計点の対全国比の割合を男女ともに1以上にする。(R5 ; 男子0.95 女子1 R6;男子0.95 女子1.01) **R7 男子1.06 女子1.01**
- ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を72%以上にする。
(R5 ; 70% R6;70.5%) **R7:67.7%**
- ・ 小学校学力経年調査における「普段（月～金）、一日あたりどれくらいの時間、インターネットを使って動画を見たり、ゲームやSNSをしたりしますか」に対して3時間以上と回答する児童の割合を昨年度より減少させる。(R5;36% R6;28.8%) **R7:25%**

【学びを支える教育環境の充実】

《基本的な方向6 教育DXの推進》

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の60%以上にする。(R5;1~2 11% R6;9. 94.7% R6.10~12 82.4% R6年間平均59%) **R8.1: 34.5%**
- ・校内児童アンケートにおける「学習者用端末等ICT機器を使った学習はわかりやすいですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を90%以上とする。(R6.6;88.5% R7.1;88.6%) **R7:88.8%**

《基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり》

- ・教員の資質向上に努め、研究授業年6回や研修会の実施、公開授業を一人一回以上実施する。
- ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を95%以上にする。(R5;94.6% R6;91.7%) **R7.12: 91.89%**

《基本的な方向8 生涯学習の支援》

- ・小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を72%以上にする。(R5;70.8% R6;70.7%) **R7:73.9%**

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

○小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、目標値87%以上、85%以上にはわずかに到達できなかった。また、いじめ肯定0%という目標値にも達成することができなかった。しかし、一昨年度・昨年度に比べて着実に結果はよくなってきていることがわかる。本年度は3・4年で『いじめの4構造』について授業を行うとともに、外部講師を招いて教員への研修も行った。単に「いじめはいけないことだ」というだけでなく、いじめとはいったいどのようにして起きるのか、その時自分は何ができるのかについて授業を行った。今後も児童がしっかりといじめについて考える機会を増やしていきたい。また毎学期末のいじめアンケートの実施とその後の丁寧な聞き取り・指導を徹底し、早期発見・早期解決に尽力していく。

○令和6年度末に不登校であったが本年度登校できるようになった児童も数名いる。しかし、今年度新たに不登校となった児童もいる。児童によって理由や状況は様々であるが、登校を促す、

迎えに行く、保護者と教育相談をする等の取り組みを今後も継続していく。本年度は、不登校児童・いきしぶりのある児童の学習できる教室を用意した。そこで対応する教員の不足は否めないが、サポーターやその時間に対応できる教員ができるだけ対応するように努めてきた。また、不登校には数えていないが、欠席日数が多い児童が数人いる。欠席数を減らすよう、保護者の協力を得ながら、これからも取り組んでいかなければならない。

○インターネットの活用時間については、保健委員会の取組や出前授業による学習等により「家庭でのルールづくり」において昨年度よりその割合は多くなった。

○本年度は学校全体での防災学習の日を設定したり、避難訓練での学ぶ機会を充実させてきたりしたが、「災害時の自分の身の守り方を知っている」と回答する児童の割合はわずかに減ってしまった。

○ポジティブ行動支援の取組を本年度より始めた。校内だけでなく保護者からも行事の際にはポジティブなフィードバックをお願いし、各学級でのポジティブ支援に加え、朝会でも称賛の機会を設けた。その結果昨年度に比べ学力経年調査においても、校内児童アンケートにおいても「自分にはよいところがあると思いますか」（自己肯定感）の数値が大きく上がっている。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○学力経年調査において、3年生は大阪市の平均正答率をわずかに下回ったがそれ以外の学年では超えることができた。

○「話し合う活動を通じて、考えを深めたり広げたりすること」については、本年度国語科を研究教科として、「対話による学び合い」を主題として取り組んできた。児童が話し合うことを通じて学びが深まる授業へと授業改善は少しずつ進んできている実感はあるが、学力経年調査における最も肯定的な回答の割合において、目標値には達しなかった。来年度も授業改善をさらに進める必要がある。

○学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は目標には達しなかったが、スポーツテストの結果は男女ともに対全国比1を超え、特に男子は昨年度より伸びている。

【学びを支える教育環境の充実】

○一人一台学習者用端末の活用は、年度の後半から毎日の持ち帰りを進めたことにより、飛躍的に伸ばすことができた。またコラボノートを導入し教員への研修会を行ったり、長期休業中の家庭学習をデジタルドリルにしたりすることでも活用は大きく伸びたが、教員による差も大きく、さらに研修で学んでいくことが必要である。

○心の天気やアンケート機能を活用し、日々の児童の心の状況把握に取り組んでいる。

○教員の資質向上に務めるため、公開授業を一人1回以上行うという目標は達成した。

○読書についての取り組みを行ってきたが、児童の読書離れは深刻である。低学年児童は読書が

好きだが、中高学年になると、その読書量が急に減ってしまう現状がある。本年度、図書委員会を中心に様々な取組を工夫したり、読書のを教室近くに広げたりしてきた結果、図書館への来館者数や貸し出し冊数は大きく増加している。また学力経年調査における「読書が好き」についての肯定的な回答も目標値に達することができている。

○教員の働き方改革については、昨年度に比べ「時間外勤務時間」は減少させることができた。しかし、まだまだ改革を推し進める必要がある。さらなる行事や会議の精選、教員の意識改革が必要である。

大阪市立墨江小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>《基本的な方向1 安全・安心な教育環境の推進》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>小学校学力経年調査</u>における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、<u>肯定的に</u>回答する児童の割合を <u>87%以上</u>にする。(R5;86.4% R6;85.1%) R7: 86.6% ・ <u>小学校学力経年調査</u>における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、<u>最も肯定的な</u>「思う」と回答する児童の割合を <u>85%以上</u>にする。(R5;78% R6;84%) R7: 86.1% (「いじめ肯定」R5;6.5% R6;2.5%) R7: 2.2% ・ <u>校内調査</u>において、不登校児童の<u>在籍比率</u>を前年度より<u>減少</u>させる。(R6; 1.48→1.86) ・ <u>校内調査</u>において、前年度不登校児童の<u>改善の割合</u>を増加させる。100%→40% ・ <u>校内児童アンケート</u>における「インターネットを使って携帯・スマホなどで、動画を見たりゲームやSNS(メール・LINE・チャットなど)をしたりするときのルールなどをおうちの人と決めていますか」に対して、<u>肯定的に</u>回答する児童の割合を<u>昨年度に比べ増加</u>するようにする。(R6;79%) R7: 82.7% ・ <u>校内児童アンケート</u>における「台風や地震、津波、火災などの災害が起こった場合、自分の身を守る方法を知っていますか」に対して、<u>肯定的に</u>回答する児童の割合を<u>昨年度に比べ増加</u>するようにする。(R6;94.5%) R7: 94.1% <p>《基本的な方向2 豊かな心の育成》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>小学校学力経年調査</u>における「自分にはよいところがありますか」に対して、<u>肯定的に</u>回答する児童の割合を <u>82%以上</u>にする。(R5 81% R6;77%) R7: 82.8% ・ <u>小学校学力経年調査</u>における「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に対して、<u>肯定的に</u>回答する児童の割合を <u>88%以上</u>にする。(R6;87.6%) R7:86.4% ・ <u>校内児童アンケート</u>において、「自分から進んであいさつをしていますか」に対して<u>肯定的に</u>回答する児童の割合を <u>90%以上</u>にする。(R5;89% R6;88.2%) R7: 82.9% ・ <u>校内児童アンケート</u>における「たてわり班や登校班活動でみんなのことを考えて、進んで協力することができましたか」に対して、<u>肯定的に</u>回答する児童の割合を <u>90%以上</u>にする。(R5;85% R6;90.5%) R7: 86.2% 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動において、自己肯定感が高められるようペアトークからグループトークを取り入れ、話す力、コミュニケーションをとる機会を増やしていく。一方で、話すことやペアトーク、グループ活動が苦手な児童がいる。その児童に対して、授業に参加できている、グループ活動に参加していることに対し賞賛し、個に応じて到達目標の違いを認めていく。(みんなが活躍できる授業づくり・わかる授業づくり) ・運動会・学習発表会・校外学習・社会見学・宿泊行事など様々な学校行事を工夫し、充実させるとともに、様々なゲストティーチャーとの体験活動を実施する。 	B
<p>指標 ・<u>小学校学力経年調査</u>における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 87%以上にする。 86.6%</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめやいのちの大切さについて考える授業を道徳などを活用して学期に1回、計画的に実践する。 ・毎月1回、「児童理解研修会」をもち、情報共有するとともに、いじめなどの課題に早期に、組織的に対応していく。 ・「いのち(いじめ)について考える日」の取組を工夫する。 ・アンケートの誤選択、読み間違いもあるので、十分な説明をした上で、アンケートする。 	B
<p>指標 ・<u>小学校学力経年調査</u>における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。 86.1%</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校傾向児童に対して、家庭や関係諸機関(区役所の子育て相談室、こども相談センター、教育支援センター花園など)と連携する。 ・状況に応じて、家庭訪問をしたり、学校での居場所の確保をしたりする。 ・不登校対策委員長を中心に教職員間での情報共有の場を設定し連携して取り組む。 	B
<p>指標 ・<u>校内調査</u>において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 1.48→1.86</p> <p>・<u>校内調査</u>において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 100%→40%</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・携帯・スマホやSNSについて年1回教員研修を行い、児童に発信する。 ・PTAによる講演会を保護者向けに年1回程度行い、保護者に啓発していく。 ・長期休み前に、スマホやゲーム、SNSの使用について話をする。 ・携帯・スマホなどSNSの使い方の実態調査を実施し、その結果に合わせて、発達段階に応じた情報モラル教育を「スマホの使い方教室」などの出前授業や道徳などにより年間1回以上行う。 ・NHK For School等の動画を活用した学級指導 	B
<p>指標 ・<u>校内児童アンケート</u>における「インターネットを使って携帯・スマホなどで、動画を見たりゲームやSNS(メール・LINE・チャットなど)をしたりするときのルールなどをうちのひとと決めていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割</p>	

<p>合を昨年度に比べ増加するようにする。</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災や防犯、安全に関する校内体制の整備を図るとともに、地域や区役所・消防署等の関係諸機関との連携を進め、避難訓練や防災学習などを年間5回計画的に進める。 <p>(内1回は保護者参加による学校全体での防災学習を実施する。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の際に、自分の身を守る方法についてのクイズを作成し、各クラスで取り組む。(ゲストティーチャーの招聘) 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>校内児童アンケート</u>における「台風や地震、津波、火災などの災害が起こった場合、自分の身を守る方法を知っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を昨年度に比べ増加するようにする。79%→82.7% 	
<p>取組内容⑥【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポジティブ行動支援について教員研修を年間2回以上実施し、取組を工夫する。 ・夢や希望、目標について考えたり振り返ったりする機会を学期に1回もつ。 ・キャリアパスポートによる目標設定や振り返りの活動を工夫する。 ・友だちのよいところを見つけ、伝え合う活動を年間2回以上学校全体で行うことで、自分のよいところに気がつき、将来の目標を見つけるきっかけ作りを行う。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>小学校学力経年調査</u>における「自分にはよいところがありますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。82.8% ・<u>小学校学力経年調査</u>における「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。86.4% 	
<p>取組内容⑦【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表委員会による「あいさつ運動」を年間通して実施する。 ・道徳や学級活動、児童朝会でのあいさつの意義の指導をする。 	C
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>校内児童アンケート</u>において、「自分から進んであいさつをしていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。82.9% 	
<p>取組内容⑧【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペア学年(1・6年、2・4年、3・5年)など異学年での交流活動を、学年に応じて計画し、実施することを年に1回以上行う。 ・異学年での活動を充実させる。(たてわり班活動・クラブ活動・委員会活動・集団登校など) 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>校内児童アンケート</u>における「たてわり班や登校班活動でみんなのことを考えて、進んで協力することができましたか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。86.2% 	C

中期目標及び年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【取組①】 計画通りできた。

【取組②】 計画通りできた。

【取組③】 担当学年以外の不登校児童の把握が不十分なところがある。

【取組④】 計画通りできた。

【取組⑤】 計画通りできた。

【取組⑥】 ポジティブ行動支援の研修や、「よいところみつけ」の取り組みなどは全て計画通りに進めることができた。

【取組⑦】 「あいさつ」の大切さは児童にしっかりと浸透してきたと思われる。代表委員による「あいさつ運動」も年間を通して行われていた。それでも数値が下がっているのは「自分から進んで」という部分に対して意識しているからではないだろうか。

【取組⑧】 たてわり班活動や集団登校などは計画通りにできたが、1・6年以外のペア学年の交流活動ができなかった。

次年度への改善点

【取組①】 引き続き、児童の自己肯定感が上がるように取り組んでいく。

【取組②】 いじめや命の大切さについて考える実践を引き続き行っていく。

【取組③】 不登校対策委員会を通じて、不登校児童の情報共有に努める。

【取組④】 スマホ、SNSの使い方をしっかり啓発していく。

【取組⑤】 引き続き取り組んでいく。

【取組⑥】 引き続き取り組んでいく。

【取組⑦】 校内児童アンケートを「あいさつしていますか」に変える。

【取組⑧】 授業時数の削減の中、ペア学年交流の時間を捻出するのは難しい。取り組みから削除する

大阪市立墨江小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標		達成状況																													
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>《基本的な方向3 誰一人取り残さない学力の向上》</p> <p>・ <u>小学校学力経年調査</u>における、国語科の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も 前年度より0.1ポイント向上させる。</p> <p style="text-align: center;">(R6;3年 1.14 4年;0.99 5年 1.06 6年;0.96)</p> <p style="text-align: center;">R7:3年 0.92 4年 1.06 5年 1.07 6年 1.04</p> <p>・ <u>小学校学力経年調査</u>の国語科・算数科において、市平均正答率の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年においても昨年度より 2ポイント減少させる。</p>		B																													
(国語科)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>R6</th> <th></th> <th>3年</th> <th>4年</th> <th>5年</th> <th>6年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>9.8</td> <td>18.1</td> <td>6.7</td> <td>13.3</td> </tr> <tr> <th>R7</th> <th>3年</th> <th>4年</th> <th>5年</th> <th>6年</th> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>19.7</td> <td>10.6</td> <td>5.7</td> <td>7.9</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>+0.8-</td> <td>-12.4</td> <td>+1.2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		R6		3年	4年	5年	6年			9.8	18.1	6.7	13.3	R7	3年	4年	5年	6年			19.7	10.6	5.7	7.9				+0.8-	-12.4	+1.2
R6		3年	4年	5年	6年																										
		9.8	18.1	6.7	13.3																										
R7	3年	4年	5年	6年																											
	19.7	10.6	5.7	7.9																											
		+0.8-	-12.4	+1.2																											
(算数科)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>R6</th> <th></th> <th>3年</th> <th>4年</th> <th>5年</th> <th>6年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>12.2</td> <td>31.9</td> <td>11.1</td> <td>12.1</td> </tr> <tr> <th>R7</th> <th>3年</th> <th>4年</th> <th>5年</th> <th>6年</th> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>20.8</td> <td>16.5</td> <td>9.0</td> <td>3.4</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>+4.3</td> <td>-22.9</td> <td>-7.7</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	R6		3年	4年	5年	6年			12.2	31.9	11.1	12.1	R7	3年	4年	5年	6年			20.8	16.5	9.0	3.4				+4.3	-22.9	-7.7	
R6		3年	4年	5年	6年																										
		12.2	31.9	11.1	12.1																										
R7	3年	4年	5年	6年																											
	20.8	16.5	9.0	3.4																											
		+4.3	-22.9	-7.7																											
<p>・ <u>小学校学力経年調査</u>における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して 最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を50%以上にする。(R5 ; 49% R6;33.5%) R7: 36.6%</p> <p>《基本的な方向4 健やかな体の育成》</p> <p>・ <u>全国体力・運動能力、運動習慣等調査</u>において、体力合計点の対全国比の割合を男女ともに1以上にする。(R5 ; 男子 0.95 女子 1 R6;男子 0.95 女子 1.01)</p> <p style="text-align: right;">R7 男子 1.06 女子 1.01</p> <p>・ <u>小学校学力経年調査</u>における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して 最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を72%以上にする。</p>																															

(R5 ; 70% R6;70.5%) **R7: 67.7%**

- ・ 小学校学力経年調査における「普段（月～金）、一日あたりどれくらいの時間、インターネットを使って動画を見たり、ゲームやSNSをしたりしますか」に対して **3時間以上**と回答する児童の割合を **昨年度より減少**させる。（R5;36% R6;28.8%） **R7: 25%**

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向3 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none">・教材の分析の仕方を研修し、授業の組み立てを工夫することで、文の読み取りの力をつける授業計画を立てる。・国語科の授業を中心にその他の教科・領域においても、話し合う機会を多く設定し、自分の考えをもち交流・対話できる力を育成する。・3年から5年で漢字検定を受検し95%以上の合格率をあげられるよう取り組む。・漢字の定着を図るために、週に一度は国語モジュールとして漢字に取り組む機会を作る。 <p>指標 ・ <u>小学校学力経年調査</u>における、国語科の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も 前年度より0.1ポイント向上させる。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向3 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none">・活字慣れをするために読書を推進する。・国語科として取り組むプリント教材を漢字プリント以外の領域も準備し、使用する。・算数科の基礎計算力の定着を図る。・基礎・基本の定着、放課後の個別指導の機会を多くもつ。・家庭学習の工夫、定着を図る。 <p>指標 ・ <u>小学校学力経年調査</u>の国語科・算数科において、市平均正答率の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年においても昨年度より 2ポイント減少させる。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向3 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none">・自分の考えを伝えるために、必要に応じて話型を学年に応じて掲示する。・自分の考えを伝え合い、対話活動を授業の中に取り入れ、経験を積めるようにする。 <p>指標 ・ <u>小学校学力経年調査</u>における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して 最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を50%以上にする。36.6%</p>	C
<p>取組内容④【基本的な方向4 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none">・かけ足週間、大縄記録会の実施・がんばりカードで、児童のがんばりを可視化する。・講堂開放週間の設置を行い、普段できない遊びや運動に触れやすい環境をつくる。 <p>指標 ・ <u>全国体力・運動能力、運動習慣等調査</u>において、体力合計点の対全国比の割合を男女ともに1以上にする。 R7男子1.06 女子1.01</p> <ul style="list-style-type: none">・ <u>小学校学力経年調査</u>における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して 最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を	B

72%以上にする。67.7%	
<p>取組内容⑤【基本的な方向4 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健委員会の取組として、インターネットを使った動画、ゲーム、SNS を見たりする時間・早寝早起きの振り返りをするアンケートを行い、睡眠時間を確保することの大切さを伝える。 	A
<p>指標 ・<u>小学校学力経年調査</u>における「普段（月～金）、一日あたりどれくらいの時間、インターネットを使って動画を見たり、ゲームやSNS をしたりしますか」に対して3時間以上と回答する児童の割合を昨年度より減少させる。R6:28.8% R7:25%</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【取組①】学年によって差があるが、前年度よりポイントがあがった学年があり、目標は達成できた。</p> <p>【取組②】学年によって差があるが、7割に満たない児童は減少しており、目標は達成できた。</p> <p>【取組③】各学級で、話し合い・伝え合い活動を取り入れてきたが、数値目標は達成できていない。</p> <p>【取組④】かけあし足習慣や大縄記録会、頑張りカードで可視化するなど、運動に触れやすい場の設定をおこなうことができた。指標の1つ目は、全国比の割合をすべての項目で1以上にする 것이できた。</p> <p>【取組⑤】保護者に周知してインターネットの使用時間調査を行い、その結果を保健だよりで知らせる取り組みをした。保護者と児童、学校とで考えるきっかけを提示することで、生活習慣の見直しにつながり、数値がよくなった。</p>	
次年度への改善点	
<p>【取組①】教材分析の研修を受けたり、勉強会をしたりと、各学年で取り組んできた。来年度も続けていきたい。話し合い活動や伝え合い活動の取り入れ方を、引き続き、学んでいきたい。</p> <p>【取組②】プリント学習を取り入れる計画から、音読に取り組む時間を確保することに変更した。国語科の授業数が減っている中、有効であった。次年度も取り組みたい。個別学習の時間を確保できるように、休み時間や放課後の時間を有効に活用していきたい。高学年は専科や学年付きの先生とともに学習を進めることができ、有効であった。基礎・基本が大切になる低学年こそ、個別に学習に向き合い必要があると考える。</p> <p>【取組③】話し合い活動や伝え合い活動は、各学年取り組んできた。数値目標に「最も」と文言を入れると、数値が上がりにくい。来年度は、目標設定を再検討したい。</p> <p>【取組④】指標1つ目のスポーツすることは好きと肯定的に回答する児童は89%であった。しかし最も肯定的に回答する児童は67%で目標の72%に達しなかった。好きだけど、苦手なものもあるという児童は「最も」肯定を選ばないのではないかと考え、来年度は肯定的に回答する児童を</p>	

90%以上にするなど、目標の再設定も必要ではないか。

【取組⑤】インターネットの使用については、家庭での継続した声掛けが必要なので、来年度も取り組む。全体では数値はよくなっているが、学年によって差があった。特に6年生の割合が高かったので、別のアプローチも必要ではないか。

大阪市立墨江小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>《基本的な方向6 教育DXの推進》</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の60%以上にする。(R5;1-2 11% R6;9. 94.7% R6.10~12 82.4% R6年間平均59%) <p style="text-align: center;">R8.1: 34.5%</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内児童アンケートにおける「学習者用端末等 ICT 機器を使った学習はわかりやすいですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を90%以上とする。(R6.6;88.5% R7.1;88.6%) <p style="text-align: center;">R7: 88.8%</p> <p>《基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり》</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員の資質向上に努め、研究授業を年6回や研修会の実施、公開授業を一人一回以上実施する。 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を95%以上にする。(R5;94.6% R6;91.7%) <p style="text-align: center;">R7.12: 91.89%</p> <p>《基本的な方向8 生涯学習の支援》</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を72%以上にする。(R5;70.8% R6;70.7%) <p style="text-align: center;">R7: 73.9%</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向6 教育DXの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 心の天気を毎朝入力できるよう各学級で取組をすすめるとともに、放送委員会を中心に 	

<p>呼びかけをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習者用端末を机の横に下げ、授業での活用を進め、帰りに保管庫へ戻すルーティン作りを図る。 ・Teams の機能を使ったオンライン学習の機会を設け、緊急時にはそれを活用して学びの継続を図れるようにする。 ・ICT 支援員の授業の中での活用 をすすめる。 ・授業に ICT 機器を毎日 1 回活用する（デジタル教科書や動画教材を大型テレビに映したり、SKYMENU を活用して意見を共有したりする。） ・休業中等の ICT 活用研修への積極的な参加を図る。 ・長期休暇にタブレットを活用した学習を行う。 ・週に 1 回は家庭学習として端末の持ち帰りをすすめる。 	B
<p>指標 ・授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 60% 以上にする。R8.1 現在 34.5%</p> <p>・校内児童アンケートにおける「学習者用端末等 ICT 機器を使った学習はわかりやすいですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 90% 以上とする。88.8%</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究教科（国語）やポジティブ行動支援の外部講師を年 2 回以上招聘する。 ・校内での授業研究会や学力向上支援チーム事業による研修、外部研究会への参加などを通して、教員の指導力の向上に努める。 ・メンター研修の活用（授業交流など若手教員の指導を推進）。 	A
<p>指標 ・教員の資質向上に努め、研究授業を年 6 回や研修会の実施、公開授業を一人一回以上実施する。</p>	
<p>取組内容③【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早い時刻のセットに努める（教員の意味改革）。 ・「ゆとりの日」は 1 8 時にセット。 ・行事や会議、仕事内容の精選をする。 ・校時を変更し、水曜日を 5 時間にすることで放課後の時間を確保する。 	B
<p>指標 ・第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 95% 以上にする。R7.12 現在 91.89%</p>	
<p>取組内容④【基本的な方向 8 生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週に 2 回「読書タイム」の時間を設け、確実に実行する。 ・「すみえ小 読書記録カード」を活用し、本に親しむ環境を作る。 ・「読み聞かせ」活動や、本の紹介活動等を推進する。（図書委員会、ボランティア、学校司書、住吉図書館による。） ・図書館開放の回数を確保すること、学級文庫や学年貸出を充実すること、児童にとって身近な場所に本のコーナーを設置するなどにより、本に触れる機会を増やす。 ・児童が興味のある本の購入を行う。 ・学校司書による読書活動の充実を図る。 	B

<p>指標 ・ <u>小学校学力経年調査</u>における「読書は好きですか」に対して 肯定的に回答する児童の割合を 72%以上にする。 73.9%</p>
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>
<p>【取組①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やらなければならないと思いながらやっているが活用まではできていない。8割使用の数値も低い。しかし子供は「わかりやすおと肯定している ・どのクラスも大型テレビの配置や整備が整い、NHK for school を見たり理科や社会のQRコードを読み取ったりして動画などを見せているはずなので分かりやすい授業に努めているはず。 ・現在は、毎日の持ち帰り、連絡帳、音読学習に活用している <p>【取組②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画的に研修・研究を行うことができたが、授業を見に行けていない ・研究授業を見たり公開授業をしたりすることで、自分の授業に活かせることを見つけたり振り返ったりするいい機会になった。 <p>【取組③】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の時間短縮や行事の精選は進めているものの、なかなか時間外勤務が減らない。 ・会議、研修以外に、個別対応もあり、放課後に教材研究、ノート、テストの採点等をできる日が少なく時間に余裕がない。 <p>【取組④】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々なアプローチによって割合が上がった ・図書室でのイベントが豊富でポイントアップにつながったと思う ・様々な取り組みがあり積極的な活動でよかった。子供たちも興味を持っていた ・学年の廊下に新しく購入した本のコーナーを作り、本に触れる機会を増やした
<p>次年度への改善点</p>
<p>【取組①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 活用する・しないを学年・担任まかせ×。学校として何をどう取り組むのか具体的に提示してみてはどうか。ICT活用研修も多くする。 ・ICTを使った授業は新しく入ったコラボノートを使うなどいろいろと試す必要がある。 ・アンケートを取る際に「大型テレビで動画をみるなど」も文言を補足すると%は上がると思う。 <p>【取組②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一授業はペア学年は必ず誰か行くなど決めてたり、授業を見に行ける体制を考える。 <p>【取組④】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語の教材に対して、並行読書ができるように準備したり、社会や理科に関する本を見つけて教室に掲示したりなどの工夫を行う。 <p>【取組⑧】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事、会議、仕事内容の精選を引き続き進める。

令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立墨江小学校協議会

1 総括についての評価

中期目標においても、年度目標においても学校の自己評価結果は妥当であり、本校の教育活動の取組に対し肯定的に受け止め、評価する。

いじめに関してや将来の夢、自己肯定感、インターネットの活用、読書については目標を達成できており、学校の取り組みが有効に働いたことがわかる。

また、「学校が楽しい」や防災、学力経年調査結果の一部等はわずかながら目標値を下回っているが、取組は十分になされていることがわかる。

一方、不登校児童の在籍比率の増加や改善の割合の低下については、取組の工夫・改善・関係諸機関との連携をさらに要する。

また話し合う活動や運動好き、進んであいさつについては目標値を大きく下回る結果となっている。その原因や取組について再度考えてほしい。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：安全・安心な教育の推進

○学力経年調査（3年以上）において「学校に行くのが楽しい」と感じている児童は約87%という結果であった。大阪市全体と比較すると高いが、残りの13%の児童に着目すると、3年生以上の40人以上が「あまり楽しくない」「楽しくない」と回答していることになる。理由はさまざまであろうが、今後も様々に取組を進めてほしい。

○いじめについては、目標値を上回っている。本年度はいじめの授業に取り組んだと聞いた。今後も様々に取組を進めていただき、いじめを許さない学校づくりをお願いしたい。

○不登校傾向の児童の増加はどこの学校でも課題と聞いている。墨江小学校でも増加傾向と聞き、個々の児童にあった対策の必要性を感じている。

○自己肯定感の向上に力を入れて取り組んだ結果、「自分にはよいところがある」の数値が昨年より増えていることを評価する。

○あいさつについては、地域でも学校でもよくあいさつできているように感じているが、「自分から進んで」と聞かれると肯定的な回答が低くなっており、自信

がないのか・・・。気持ちのあいさつをしてくれていると感じている。

○集団登校の様子を見ていても、下級生にやさしい姿や協力する姿を見る。しかし「縦割り班や登校班活動でみんなのことを考えて、進んで協力することができましたか」に対する回答が86.2%と思ったより低い数値だ。

年度目標：未来を切り拓く学力・体力の向上

○学力については経年調査の結果、大阪市の平均を超え、一定の成果をあげていることを評価する。

○話し合い活動に力を入れて取り組んでいると聞いた。「話し合いにより自分の考えが深まった」の数値は上がっている。継続して取り組んでほしい。

○平日のインターネットの一日の活用時間が3時間を超えている児童の割合が減っている。取組の成果と評価できる。今後ますます活用時間が増えていくことが考えられる。継続した指導をお願いしたい。

年度目標：学びを支える教育環境の充実

○家庭でのインターネットの活用時間は増えているが、学校では学習者用端末の活用率が伸びないのか。学習への利活用や心の天気取組などがさらに進むとよい。

○読書については、様々な取組で、図書館の来館者数や貸し出し冊数が増えているが、「読書好き」とはならないものようだ。子どもは図鑑なども好きなので、いろいろな本に親しむことを重視してもいいのではないかと。

3 今後の学校園の運営についての意見

・ますます端末の活用が進んでいくと思う。子どもたちは、音読やドリルなどの宿題を端末で行うようになり、自分で進んで取り組んでいる。今後も有効に活用させてほしい。

・子どもたちのインターネットの活用時間は学習や遊び以外にも習い事やスポーツでの活用もあり、時間が長くなるのは仕方ないところもあるのではないかと。家庭でのルール作りや自律の意識を育てなければならない。

・墨江小学校の縦割り班活動や集団登校は、何十年と続く本校の特長となっている。以前はその年の班長が新1年生の家に手紙を入れに来てくれ、入学前から関係作りがなされていた。そのような豊かな心の育成は続けてほしい。

・学校の取組がどんどん変化し、自分たちのときには想像できなかった教育になってきている。時代の流れに合わせた教育とこれからも続けて大切にしていきたい教育とそれぞれどちらも必要などころである。